

Title	『アイ・ダブルユー・ダブルユー』の成立
Sub Title	
Author	園, 乾治
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1934
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.28, No.8 (1934. 8) ,p.1181(37)- 1221(77)
JaLC DOI	10.14991/001.19340801-0037
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19340801-0037

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

的形象を理論的に認識することとは同一視すべからざるものだからである。テレオロギイの財政學はテレオロギイを認識の方法としてとりあげる。即ち此財政學に於ては、目的形象の認識は一個の特有なる認識である。此場合、種々なる目的形象は組織目的に整序せられる。財政は斯る組織目的を基礎とする統一體である。然るに政策論に於ける目的形象は、單なる個別的概念であつて、其れ自體の論理的構成をもつものではない。斯る目的形象を統一的・論理的に認識する爲めには、テレオロギイの方法論を採らなければならない。

斯くてエングリッシュに於けるテレオロギイの財政學は一個の財政學方法論として充分に成功して居るのである(註四〇)。

註三九 Vgl. Rischl, Theorie der Staatswirtschaft und Besteuerung, 1925.

註四〇 Vgl. Englis, Zur teleologischen Theorie der Wirtschaft (Finanzarchiv, N. F. Bd. I. H. IV.) Vgl. Finanzarchiv, N. F. Bd. I. H. I. Ss. 176-177.

(一九三四・七・一七稿)

『アイ・ダブルユー・ダブルユー』の成立

園 乾 治

目 次

- 一 先驅者
- 二 『二月會議』と『宣言書』
- 三 創立の經過
- 四 内部組織

一、先驅者

『アイ・ダブルユー・ダブルユー』(I. W. W.)即ち『世界産業労働者組合』(Industrial Workers of the World)は一九〇五年シカゴに組織せられたる革命的産業別労働組合である。その革命的思想は新労働組合運動又は新社會主義の名を以て呼ばれてゐる。革命的産業別労働組合運動はアメリカに於ては一八七〇年及び八〇年にこれを見るの

『アイ・ダブルユー・ダブルユー』の成立

三七 (一一八一)

であるが、イギリスに於てはチャーチスト運動に同様の思想が現れてゐる。この時代に於て現在のフランスのサンヂカリストやアメリカのウーブリーの行ひつゝある手段が盛んに用ひられた。(ウーブリーと言ふのはアメリカの西部地方に於て『アイ・ダブルユー・ダブルユー』を呼ぶ俗稱である。)

アメリカに於て『アイ・ダブルユー・ダブルユー』の思想の原型はイギリスに於けるよりも非常に後れて現れた。一八三四年『全國諸業労働組合』(National Trades Union)の組合員が政府に對する組合の態度を論じたことがあり、一八六四年労働組合の全國的聯合團體の組織が企てられ、二年の後ボルチモアに於て『全國労働組合』(National Labor Union)が組織せられた。それよりも重要な先蹤は『ナイト・オブ・レーバー』(Noble and Holy Order of Knights of Labor)であつた。彼等は「一人の人に對する害悪は總ての人の關係せることである」と言ふ箴言を有し、生産的産業の各部門に組合を組織し、勞作者に彼等が創造した富の正當なる分前を確保し、仲裁制度を以てストライキに代へ、労働時間を八時間に減少すること提案し、電信電話鐵道の國有を勸告し、協同主義を力説した。『ナイト・オブ・レーバー』は始め秘密結社であつたが、後にこの特色を捨てた。而してその根本思想は一切の労働者の團結であつて、賃銀の形態を以て報酬を受けると否とを問はず一切の生産的労働者を引入れることを欲した。その統制は總協議會の手にあり、總會の選任したる執行委員の命令には總ての組合員が服従することを要求し、甚しく中央集權的であつた。併しこの組合は急進的分子と保守的分子とを併せ包括し、仲裁制度に關する條項を有するにも拘らず、勞資間の利害關係の一致を信じなかつた。彼等は暴力を排斥したが、實際に於てはこれを廣く利用したのであつた。

『ナイト・オブ・レーバー』の成立と時を同じくしてヨーロッパに於ける『國際労働協會』(International Workingmen's Association)即ち『インターナショナル』(International)が一八七一年アメリカにも移つて來た。彼等は短命であつたが、十年を経たる一八八一年ピッツバーグに他の團體を組織した。彼等は政治活動を排斥し、教育及び宣傳が社會革命の最善の手段であると主張した。而して一八八三年全國二十六都市の革命的社會主義者と無政府主義者の團體の代表者とが合同の大會を開き『國際労働者協會』(International Working People's Association)を組織した。これは其前年イギリスから移住して無政府主義の宣傳に任じてゐたジョン・モスト(John Most)が中心となつて活動した結果である。而してこの會合に於て賃銀制度の廢止に賛成し、且つ奮闘しつつある労働組合が將來の社會組織の基礎であると言ふ決議案が通過し、同時に無政府主義者の信條を直截簡明に表現したる『ピッツバーグ宣言書』(Pittsburgh Manifesto of the International Working People's Association)が起草せられた。而してこれはその極めて多くの部分を『共產黨宣言』から借用してゐるが、アメリカ無政府主義史の重要な文献で、その中にはあらゆる手段、即ち革命的國際的活動によつて、現在の政府を破壊し、生産機關の間に於ける同等の生産物の交換の自由を基礎とし、仲介人の介入を許さない産業制度を建設することを主張した。これを原文によつて示せば次の如くである。

「我等は此の奇怪なる制度を選舉の如き平和的手段を以て改革する過去の總ての計畫が無駄であつたことを多

数の實例によつて示すことが出来る。而して將來に於ける斯の如き努力も亦必らず同様であらう。……現代の政治機關は有産階級の手先であり、彼等の使命は彼等の主人の特権を保持することである。諸君の爲めにする何れの改革も是等の特権を剝奪するであらう。……彼等は自發的に是等の特権を棄去るものでないことを知つてゐる。……我等は我等の傭主の親切に依頼しなくてはならぬ。而して彼等から如何なる善事も期待することが出来ないことを知るが故に、我等の執る手段は唯一——力あるのみ。

力によつて我等の祖先は政治的抑壓から解放せられた。力によつて彼等の子孫は經濟的束縛から解放せられねばならぬ。「それ故に武裝することは汝等の權利であり、汝等の義務である」とジェファースンは言つてゐる。それ故に我等の爲すべきことは直截簡明である。

第一、現在の階級支配をあらゆる手段、例へば熱烈不休の革命的、國際的活動によつて破壊すること。

第二、協同的生産組織に基く自由社會の建設。

第三、商業及び利潤取引の無き生産組織により、またその間に於ける同價値の生産物の自由交換。

第四、非宗教的、科學的且つ兩性の平等に基礎を置く教育の組織。

第五、性別又は人種別を認めざる一切の人の權利の平等。

第六、聯邦主義的基礎にある自治(獨立)團體と組合との間に於ける自由契約による公共事業の規律。

(Commons and Associates, History of Labour in the United States, Vol. II p. 295; 拙稿「アメリカ労働階級

の政治運動と社會主義思想」三田學會雜誌、第二十四卷、第九號)

而して此『國際労働者協會』は、僅々二ヶ年の間に七千に達する組合員を獲得したが、一八八八年ヘイマーケット事件の爲めに解散することとなつたのである。(ヘイマーケット事件に就ては、拙稿「一八七八年以降に於けるアメリカの新労働組合運動」三田學會雜誌、第二十四卷、第十號、五〇頁以下参照)

一八七四年『アメリカ合同労働者組合』(Association of United Workers of America)と稱する社會主義的團體が成立した。これは他の社會主義團體と合同して、一八七六年『労働者黨』(Workingman's Party)となり、後に『社會労働黨』(Socialist Labor Party)と改稱した。この外一八七四年にはあらゆる階級の労働者を結合し、賃銀制度の徹廢を終局の目的とする『産業主権者團』(Sovereigns of Industry)が、マサチューセッツ州スプリングフィールドに於て組織せられた。次で一八八四年には『合衆國合同醸造労働者全國組合』(National Union of the United Brewery Workmen of the United States)が組織せられた。これは其後一八九〇年組織せられたる『アメリカ合同鑛山労働者組合』(United Mine Workers' Union of America)に次で有力なる産業別労働組合であつて、醸造業並びにこれに係る業務に従事する労働者を總て包括する組合であつた。これは始め『ナイツ・オブ・レーバー』に加盟してゐたが、後に『アメリカ労働聯合』(A. F. of L.)に轉じた。その主義は保守的であつたが、常に産業別労働組合を支持した。

一八八八年のヘイマーケット事件は社會主義運動及び労働運動の發展を阻止することが甚しかつた。併しこれは

新しい『社會労働黨』をして、労働解放の運動に於ける正しき進路に就て熱心なる討議を起さしめ、フランスの労働組合運動者をして總ストライキの思想に想到せしめ、アメリカのサンヂカリズムに『アイ・ダブリュー・ダブリュー』を組織せしむるに至つた。この事件から五年を経て一八九三年六月シカゴに鐵道従業員の産業別組合が組織せられ、二年後のプルマン工場のストライキの當時には十五萬の加入者を擁してゐた。併しストライキの失敗の爲めに一八九七年には解散してしまつた。この運動の中心人物はユージン・ブイ・デブス (Eugene V. Debs) であつた。(拙稿「第十九世紀末葉に於けるアメリカ労働運動の概観」三田學會雜誌、第二十五卷、第八號、四七頁以下参照)

一八九三年は『西部坑夫聯合』(Western Federation of Miners)の設立を以て記憶せられる。この組合はモンタナ州ビュートに於て組織せられ、間もなく『アメリカ労働聯合』に加入したが、一八九七年これから脱退し、一八九八年『西部労働組合』(Western Labor Union)と、一九〇五年『アイ・ダブリュー・ダブリュー』と提携を廢したる後一時獨立の存在を維持したが、一九一二年再び『アメリカ労働聯合』に加盟した。此組合はアメリカ労働運動史に於て多くの労働争議と關係した。彼等の企てたストライキは無秩序と暴行とを特色としてゐる。而してこれは『アイ・ダブリュー・ダブリュー』の來るべき戰鬪的産業別労働組合運動の誕生を示すものである。

後に『アイ・ダブリュー・ダブリュー』に於て重要な地位を占めたヘイウッド (William D. Haywood) とセント・ジーン (Vincent St. John) は初期のこの組合の活動せる指導者であつた。彼等は政治的活動をも決して輕視しなかつた。併し彼等はこれを以て満足するものではなく、社會主義の原理を採用し、社會黨を支持してゐた。一九〇四

年の陳述に於て、それは現在の賃銀奴隸制度から完全に解放せられる唯一の道であると述べてゐる。併し經濟的武器であるストライキを看却してはゐない。労働者の産業統制問題を論じ、ヘイウッドは第十回の大會に於て組合が鑛山に投資し、組合の利益の爲めに組合員が經營すべき提案を爲し、次の大會に於てモイヤー (Charles H. Moyer) も同様の計畫を發表した。これは組合が當面せる困難の爲めに中止せられたが記憶すべき事柄であつた。尙『西部坑夫聯合』が急進的組合であることは其規約の前文に示されてゐる。(拙稿「アメリカに於ける産業別労働組合運動」一班「三田學會雜誌、第二十六卷、第九號、十三頁以下参照」)

『西部坑夫聯合』は一八九八年ソルト・レーキ市に於ける『西部労働組合』(Western Labor Union)の成立に努力した。後者は一九〇二年其本部をモンタナ州ビュートからシカゴに移し、名稱を『アメリカ労働組合』(American Labor Union)と改め、一九〇五年他の急進的組合と共に『アイ・ダブリュー・ダブリュー』に合併せられた。『西部坑夫聯合』は常に『西部(アメリカ)労働組合』の重要な構成分子であつた。後者は西部の總ての賃銀労働者を組織することを目的としたが、一九〇一年までは事實上『西部坑夫聯合』の別名であつて、それに全國的性質を與へる爲めに組織せられたと言ふことが首肯出来る。

『アメリカ労働組合』は明白に産業別労働組合であつて、重要な點に於て『アイ・ダブリュー・ダブリュー』と類似してゐる。併しそれよりも一層明白に政治的性質と同情とを有してゐる。併し乍ら其窮極の目的が社會主義的であるから、政治的社會主義形態の、産業別労働組合の、最も發展したるものである。この組合の指導者の多數は社會

黨員であり、單一の獨立せる労働階級の政治活動の秋が来たことを信じ、我等は國際社會主義に賛成し、『アメリカ社會黨』の綱領を『アメリカ労働組合』の綱領として採用することを宣言してゐる。併し乍ら『アメリカ労働組合』は社會主義に賛成するが、『アメリカ労働聯合』に對立し、革命的労働運動を目的とする點に於て『社會主義同業労働同盟』(Socialist Trade and Labor Alliance)と異つてゐる。

『アイ・ダブルユー・ダブルユー』主義は西部に非常に根強く行き亘つた。其中心を爲すものは『西部坑夫聯合』であつた。然るに東部に於て『アイ・ダブルユー・ダブルユー』の成立まで重要な地位を占めてゐたものは『社會労働黨』と『社會主義同業労働同盟』の二つであつた。前者は一八七七年組織せられ、『全國労働組合』(National Labor Union)、『國際労働者協會北アメリカ聯合會』(North American Federation of the International Workingmen's Association)、『社會民主労働黨』(Social Democratic Workmen's Party)の合併したもので最初は『合衆國労働黨』(Workmen's Party of the United States)と稱したのであつた。而して其構成分子には労働組合的社會主義者と政治的社會主義との二派があつた。其兩派の勢力の消長は時代の趨勢を示してゐた。一八七七年に於ては政治的社會主義が、勝利を占めたが、其後の選舉運動の失敗によつて、無政府主義的傾向を強くし、殊に中西部に於てはこの傾向が明に認められ、革命的サンジカリズムの方向に進んでゐた。

『社會主義同業労働同盟』(Socialist Trade and Labor Alliance)は一八九五年組織せられた。この團體の思想はダニエル・デレオン(Daniel De Leon)に基いてゐる。彼は有名なるマルクス社會主義者であつた。この同盟に對して『社會労働黨』は一八九六年の大會に於て正式にこれを承認した。この同盟は『ナイツ・オブ・レーバー』に範を模したものであり、産業別労働組合と言ふよりも革命的社會主義労働組合であつた。彼等は産業的組織に重點を置き、『社會労働黨』に援助を與へる點に於て『アメリカ労働組合』其他と異つてゐる。この同盟の「主義の宣言」(Declaration of Principles)は「労働組織の手段と精神とは、集中せられた資本の攻撃に對抗するに無氣力であり、資本家階級の經濟的勢力は諸制度特に政治制度に依つてゐる。これは經濟的並びに政治的に一階級として團結せる労働者の直接行動による外、急激に變革することが出来ない」と述べ、更に同盟の重なる目的に就て次の如く述べてゐる。即ち階級の徹廢、土地其他一切の生産手段、交通機關の復興、團體としての人口に對する分配によつて、暴虐なる階級闘争を廢止するにある。又無計畫の生産、産業上の闘争、社會的無秩序の現代國家に代るに協同國家を以てするにある。それは労働者各自が現代の文明の力によつて彼等の能力を自由に發揮し、十分なる便益を受ける國家である。この時代に於てダニエル・デレオンは革命的労働組合は産業的であり、非政治的であるよりも政治的であるべきものと考へた。而して彼はドイツに於けるが如く政治運動が労働組合を支配しなくてはならぬと感じた。勿論彼は後に於ては革命的労働組合運動が政治運動を支配し、革命的労働運動が社會主義運動に明白なる任務を有すべきことを信するに至つた。

一九〇〇年以後五年間は、戰鬪的産業別労働組合運動の思想が急激に發展した。労働組合運動者は労働組合の社會的任務に就いて非常に廣い見解を持つことになつた。このことは労働組合の改造の傾向となつて現れた。而して

これは『アメリカ労働聯合』の極力反対するところであつて、『合同金屬労働者組合』(United Metal Workers)は一九〇四年十二月遂にこれから脱退した。翌年彼等が『アイ・ダブルユー・ダブルユー』に参加した時、これから漏れたものは極めて僅に過ぎなかつた。これと同様のことは『合同鐵道従業員組合』(United Brotherhood of Railway Employees)に就ても言ひ得る。『アメリカ労働組合』も鑛山部を除いては殆んど解散に瀕して居り、『合同鑛山労働者組合』には地方支部の解散したものが多くあつた。『合同釀造労働者組合』も亦『アメリカ労働聯合』から其産業別組織に就て絶えず非難を加へられてゐた。斯の如くして多數の全國的組合及び地方支部は産業別労働組合の勢力を増加する爲めに、中央機關の創設を希望したのである。

『社會主義同業労働者組合』は衰退の傾向にあつたが、尙『アメリカ労働聯合』の保守主義に反抗する一團の労働者を有してゐた。彼等は強力なる革命的IIマルクス主義的組織を希望した。『西部坑夫聯合』は最も革命的熱意を有したる産業別労働組合の代表者であつた。併し彼等の經驗は時代の好況によつて彼等の地位が改善せられるものでないことを教え、暴動を伴ふストライキを繰り返し、これに對して州政府は屢々兵力と裁判權とを利用した。そこで彼等は社會主義的方針に従つて産業別労働組合を組織し、政治活動を爲すの必要を痛感した。斯の如き時代の要求によつて『アイ・ダブルユー・ダブルユー』が成立するに至つたのである。

(附記) 本稿は『アメリカに於ける産業別労働組合運動一斑』(三田學會雜誌、第二十六卷、第九號所載)に對する別篇なすべきもので、特記せる場合の外は主として Paul Frederick Brissenden, The I. W. W.: A Study of American Syndi-

calism, Second edition; John Graham Brooks, American Syndicalism, The I. W. W. 其他多數の小冊子に據つた。

二、『一月會議』と『宣言書』

『アイ・ダブルユー・ダブルユー』は一九〇五年六月シカゴに於て開催された産業別労働組合會議に於て組織せられた。この第一回又は創立大會の前に非公式の會議が前年秋開催せられた。それには六名の社會主義及び労働運動に於ける知名の士が出席した。『合同釀造労働者組合』の機關紙『釀造新聞』(Baraner Zeitung)主筆トラウトマン(William E. Trautman)、『合同鐵道従業員組合』會長イースマン(George Estes) 同組合の財務書記長ホール(W. L. Hall)イギリスの『合同機械工組合』のアメリカ代表コーウマン(Isaac Cowen)、『アメリカ労働組合』財務書記長スミス(Clarence Smith)及び右組合の機關紙『労働の聲』(Voice of Labor)主筆ハーガーティ(Thomas J. Hargerty)がそれである。この會議には出席しなかつたが、熱心に支持し協力した數名の士がある。その中の最も重要なものはデブス(Eugene V. Debs)と『合同金屬労働者國際組合』(United Metal Workers International Union)書記長シャーマン(Charles O. Sherman)である。

是等の人士はアメリカの労働組合が労働階級の爲めに眞の利益を擧げることが出来ない程無氣力となりたることを嘆息し、且つ最近の労働組合運動に關する出來事に鑑みてこの感を深くしたのである。それは勿論、保守的貴族的労働組合に關してのみならず、産業別の急進的労働組合に關しても言へることである。而してこの問題を進め計

書を討議する爲めに十一月二十九日、もつと多く者の集會を開くこととして急進的労働運動并に社會主義運動に於て知名の士三十名に招待状を送つた。その招待状は次の如く言つてゐる。「労働階級が、政治方面と産業方面に於て適當に組織せられるならば、國內の産業を所有し經營して成功を収めることが出来るであらうといふことを我等は確信する。又社會主義的選舉戦によつて労働階級の政治上の意見が健全に表現せられる爲めには、將來の社會主義社會の骨組として建設せられる労働團體の中に、同じ組織の經濟的團體を有しなくてはならぬ。斯く信ずるが故に吾等は貴下が一九〇五年一月二日(月曜)シカゴに於ける會議に出席せられることを切望する。此會合の目的は過去又は現在の何れの労働團體とも關係なく、正しき革命の原則に従ひ、只労働階級の利益の眞實の擁護者として安全を保障する根本原則にのみ制約せられる労働階級の團結の手段を討議することを目的とする秘密會議である」。而して此招待状は少數の例外を別として殆んど一致して受諾せられ、「西部坑夫聯合」も熱心に賛成の意を表した。

「一月會議」(January Conference)として知られてゐる秘密會議が豫定の通り二月二日シカゴに於て開催せられた。この會議に出席したものは、九團體を代表する二十三名と「社會黨」及び「社會労働黨」の者と合せて約三十名であつた。其の主なる者は「西部坑夫聯合」會長モイヤー(Charles H. Moyer)同書記ヘイウッド(Wm. H. Haywood)「坑夫雜誌」(Miners' Magazine)主筆オニール(J. M. O'Neill)、「國際社會主義評論」(International Socialist Review)主筆シモンズ(A. M. Simons)「社會労働黨」及び「社會主義同業労働同盟」の組織者ボーン(Frank Bohn)「労働の聲」(Voice of Labor)主筆ハーゲーティ(T. J. Hargety)「合同金屬労働者組合」(United Metal Workers)のシャープン

(C. O. Sherman)と我等の母メリー・ジョーンズ("Mother" Mary Jones)であつた。

會議の會期は三日に亘り、新しい労働團體の計畫を熱心に討議し、委員會の報告は會議員によつて「宣言書」(Manifesto)に作成せられた。而してその内容の主要なる眼目は、第一労働組合運動の現状、第二新労働團體の指導的主張と計畫、第三大會の召集であつた。第一に關しては機械的生産過程が熟練の必要を減じ、労働者の地位が低下して行くこと、資本家の専横に對する抵抗力が人爲的差別によつて弱められる、併し乍ら傭主は産業別に團結し、軍隊の力を利用するが故に強力となることを明かにしてゐる。第二の點に就ては技工別組合組織が嚴重なる批判を受け、階級の連帶を不可能ならしめると言はれる。これが改善策として主張せられるのは總ての産業を含む一大産業別労働組合で地方的には技工(職業)別自治、國際的には産業自治、而して一般に労働階級を結合するものでなくてはならぬ。これは階級闘争に基礎を置き、政黨と無關係の労働階級の經濟團體として組織せられねばならぬ。この中で技工(職業)別と言ふのは奇妙に感ぜられるが、各職業關係の事柄に關する職業的自治を意味するのである。尙この宣言書は一切の權力が團體としての加入者に歸し、總ての様式や會費が一樣であり、定期に報告書を發行しまた中央防衛基金を設けることを主張してゐる。而して第三の點に關しては産業別に労働階級の經濟的團結を爲すために一九〇五年六月二十七日シカゴに於て大會を開くこととした。この「宣言書」はアメリカ全土の總ての組合並にヨーロッパの産業別労働組合に廣布せられた。

『宣言書』の全文は次の如くである。

『アイ・ダブルユー・ダブルユー』の成立

社會關係及び集團は機械的並びに産業的狀態の反映に過ぎない。現代産業の一大事實は機械を以て人の熟練に代へたことと、富が生産せられ分配せられる道具の所有を集中することによつて、資本家の勢力を増加したことである。

これ等の事實によつて労働者間の職業の區別と資本家間の競争とは共に消滅しつゝある。階級の區別は愈々固定し、階級の反感は愈々鋭くなる。職業の限界は機械に對し總ての労働者が何れも屈從することによつて消滅した。生産力の少い機械に變りつゝある新しき機械は、あらゆる職業を完全に破壊し、新しき労働者の一團を無職の絶望せる失業者の絶えず増加する團體に投げ入れる。人及び人の熟練は機械的過程によつて置き換へられ、資本家は労働者の心身が最も緊張して應答する短期間に限り労働者を使用する必要がある。労働者が最早最高の利潤を擧げることが出来なくなつた瞬間彼は掃溜に捨れ、不用の機械の側に餓える死線が引れ、年齢の制限が設けられる。これを越ゆることは、機會が獨占せられるこの世界に於ては、産業的に死の宣告を意味する。

労働者は土地と道具から全く分離し、職人としての熟練が無用となり、一樣な賃銀奴隷の集團に沈淪する。彼は發達せる産業場裏から發生した階級的區別によつて、彼の抵抗力が破壊せられたのを見る。彼の賃銀は労働時間が延長せられ、獨占的物價が騰貴するに反して、絶えず減少する。利潤獲得者の要求に應じて此處彼處と轉々し労働者の安住處は無くなつた。この無援の状態に應じて、彼は其傭主が課する如何なる屈辱的條件をも受諾せざるを得ない。彼は體格及び智能の検査を受けなくてはならぬ。それは奴隷が競賣所で賣買せられる時よりも甚

だしく精査せられる。労働者は最早職業的熟練の差異によつて區別せられず、彼等が屬する機械に従つて傭主はこれを分類する。これ等の區別は、労働者間の熟練又は利害の差異を現すものでなく、労働者が相互に同情し、工場に於て一層努力する様に刺戟する爲めに、又資本家の専横に對する反抗を總て人爲的差別によつて薄弱ならしめる爲めに、傭主が課するものである。

労働者間に於ける是等の區別的發展を獎勵する一方に於て、資本家は新しき事情に注意して自らを適應せしめる。彼等は彼等の間の差異を總て一掃し、労働に對する闘争に於て統一せる戦線をつくる。傭主組合を通じて、總ての抵抗する勢力を法律の禁止命令及び軍隊の力を利用して、暴力を以て粉碎しやうとする。若し他の政策が有利であると思はれる時は、『市民同盟』(Civic Federation)の陰に隠れて匕首を祕し、彼等が支配し掠奪する人々を欺瞞する。兩手段の成否は労働階級の盲目と内部の不和とに依る。傭主の戦線と戦術とは機械的及び産業的集中の協力による。然るに労働者は彼等の戦團團體を過去の職業的區別に従つて組織してゐる。過去の戦團はこの教訓を力説する。ローウェル、フィラデルフィア、フォール・リバーの織維労働者、職業的區別の爲めに弱くなつたシカゴの屠殺者、同じ傭主に服従する同僚労働者から支持を受けないサンタ・フェー鐵道の機械工、産業戦場に於て統一と協力をとなく爲めに阻害を受けた長年闘争せるコロラドの坑夫、これ等は總て現在の如き組織せられた労働の孤立と無力との證據を示してゐる。

この腐敗せる制度は何等改善と順應の希望とを有しない。暗雲に對する白光は存せず、労働界に失望を招いて

る。

この制度は唯賃銀奴隷制度から僅に脱出する爲め不斷の闘争を爲さしめるに過ぎない。産業民主制度の建設の能否に對しては全く知らない。この産業民主制度に於ては賃銀奴隷はなく労働者は使用する道具を所有し、其生産物は彼等のみが享有するのである。それは労働者等を産業戦場に於て孤立無力ならしめる香氣の中に閉込める。技工の區別は産業的及び財政的協力を不可能ならしめる。

労働組合員間の裏切、労働者相互の憎悪が増大し、労働者は無援四散の儘で資本家の手に引渡される。職業間の嫉視は職業独占の創設を計畫せしめるに至る。

禁止の入會金が設けられる。これは労働者をして其意志に反して裏切者たらざるを得ざらしめる。労働者が其男性氣分又は周圍の事情から、ある職業から離れて新しき技工別組合に轉入しやうとすれば罰金を課せられる。技工的區別は労働者の間に政治的無智を養成し、斯の如くして選挙戦に於ても亦商店、鑛山及び工場に於けると同様彼等の階級を分裂せしめる。

技工別労働組合は傭主の独占の設定と物價の引上げとを助ける爲めに、利用せらるべく又現に利用せられてゐる。斯の如くして少數の労働者は他の労働者の一體の生活條件を悪化せしめるのが常である。

技工的區別は労働者の階級意識の發達を害し、被傭奴隷と使用掠奪者との間の利害一致の思想を養成する。彼等は労働者の誤れる指導者が『市民同盟』に於て資本家と團結することを許す。この同盟に於ては資本主義の永續

の爲めに計畫を樹て、賃銀制度によつて労働者を永久的奴隷となしてゐる。從來の労働階級の改善の爲めの努力は其範圍が局限せられ、其活動が聯絡を缺いてゐたから未完成であることが知られた。

労働階級に附纏ふ普遍的經濟的害悪は、普遍的労働階級運動によりて始めて絶滅することが出来る。斯の如き労働階級の運動は、職業の分立と賃銀協約とが同一産業に於ける他の職業に對して傭主に利益を與へてゐる限り、而して労働組合の役員の何等効果のない管轄上の擴大に勢力を浪費してゐる限り不可能である。これ等の條件を満す運動は總ての産業を包括する一大産業別労働組合にある。——それは地方的には職業自治、國際的には産業自治、一般的には労働階級の統一を行ふものである。

それは階級闘争の上に設立せられねばならぬ。而して其一般の管理は資本家階級と労働階級間の打破仕難き衝突の承認と一致して行はれねばならぬ。

それは如何なる政黨にも参加せざる労働階級の經濟團體として設立せられべきである。

總ての權能は團體的加入者に歸すべきである。

地方的、全國的及び一般的管理は組合票、卸、記章、移動票、入會金、人頭賦課金等を含むが全國的に統一せられねばならぬ。

總て組合は彼等が使用せられる産業を含む地方的、全國的又は國際的組合の加入權を有しなくてはならぬ。併し地方的又は全國的、國際的組合間の加入權の移動は普遍的でなくてはならぬ。

外國に於ける産業別労働組合から組合票を携へる労働者は無條件で参加せしむべきである。総管理部は全組合及び其原則を示す印刷物を發行すべきである。これは定期的に各産業の全組合員に發布せらるべきである。

全加入者が同額の出資をなす中央防衛基金を設立し、維持すべきである。

それ故に此處に示したる原則に同意する總ての労働者は一九〇五年六月二十七日シカゴに於て大會を催すであらう。其目的とするところはこの『宣言書』に示したることに従ひ、労働階級の經濟的團體を組織することを目的とすることである。

(Justus Ebert, *The I. W. W. in Theory and Practice*, Appendix II. pp. 120-124)

三、創立の經過

一九〇五年六月二十七日から七月八日までシカゴに於て大會が開催せられた。この會議は始め「産業會議」(Industrial Congress)又は「産業別労働組合大會」(Industrial Union Convention)と稱せられたが、閉會前に「世界産業労働者組合」(Industrial Workers of the World)乃ち『アイ・ダブルユー・ダブルユー』(I. W. W.)が組織せられたから、其第一回年次大會と稱せられることとなつた。この會議は著名な劃期的な會議であつて、産業別労働組合運動史に於ける基本の一章をなすものである。

この會議に出席せるものは總數百八十六名(此處ではセント・ジョン(St. John, *The I. W. W. Its History, Structure, and Methods*)、エバート(Ebert, *The I. W. W. in Theory and Practice*)、ブックス(Brooks, *American Syndicalism, The I. W. W.*)による。ブリッサン(Brissenden, *The I. W. W., A Study of American Syndicalism*)によると二百三名と記してゐる)で、尠く共四十種の職業に亘つてゐる。而して此處に代表せられたる労働組合は構成形態から見ると次の七種となる。第一のものは單純なる産業別労働組合で、特定の産業に従事する労働者はその能力の如何を問はず同一の組合の組合員たらしめるものであり、『西部坑夫聯合』がこの種のものとしては代表的である。第二は複合的産業別労働組合で、鐵道従業員の組合、機械工の組合、音楽家の組合を包括する『アメリカ労働組合』の如き産業別労働組合の聯合體をいふのである。第三は所謂國際的労働組合で、その範圍に於ては稀れに全國的以上であり、特定職業の地方的組合の全國的協會たるに過ぎないものである。『アメリカ金屬労働者合同國際組合』がこれである。第四は非聯合産業別労働組合であり、『合同坑夫労働組合』の如く職業單位よりも産業單位であり、他の産業に於ける同種の團體又は傭主と聯合するものを除外する産業別労働組合である。第五は普通の非聯合的職業別労働組合であつて、これには(A)同業労働組合の合同體、これを構成せる組合は個性を維持せるも自治權を喪失せるもの、『合同機械工組合』の如きものと、(B)鑄物工の組合の如き特定職業の全國的労働組合で、構成せる組合は全國的團體に對して合同以上に服従關係に立つものとがある。第六は州内聯合體で、『ユタ州労働聯合』の如きである。最後の形態は普通でない型の労働組合で、『産業労働俱樂部』とが『合同労働聯盟』

(United Labor League)の如きものである。これ等の種々の形態の労働組合が大會に参加したのであるが、併し乍ら國際的又は全國的團體が全體として代表せられるのは極めて小部分で、多くは一、二の地方支部が代表したのであつた。而して前者が會議に於て有力なる地位を占めたのは勿論であつて、『アメリカ労働組合』、『合同金屬労働者組合』の如きは何れもこれに屬する。

會議の出席者には代表議員と個人議員とがある。前者は其代表する組合員數に應ずる投票權を有し、後者は單に本人の一票を有するに過ぎない。代表議員の中團體加入の全權を委任せられたるもの七十、これを有せざるもの七十二を算する。而して前者は五萬一千四百、後者は九萬一千五百を代表し、合せて十四萬三千が此會議に於て代表せられたこととなるのである。此内新しき計畫に参加しようと決意せるものは凡そ五萬で、組合員二萬七千の『西部坑夫聯合』、一萬一千の『アメリカ労働組合』を初め、同じ三千の『合同金屬労働者組合』、二千の『合同鐵道従業員組合』、一千五百の『社會主義同業労働同盟』の五團體が一千以上の投票權を有するものであつた。併し前述の如く二つの有力なる組合を除外すれば他は全然紙上の存在に過ぎぬものであつて、實勢力を示すものではない。

而して代議員として選任せられた人々は共通の目的を達成する手段がそれぞれ相異してゐた。乃ち、第一は議會主義的社會主義者で、これにはマルクス主義者と改良主義者との二派があつた。第二は無政府主義者、第三は産業別労働組合主義者、第四は労働組合を利用して私利を圖る者であつた。是等の信條の不同は、少數の眞に會議を動かす人々によつて、生氣と色彩とを帯びるに至つた。その人々といふのはデレオン(Daniel De Leon)、ハイウッド

(William D. Haywood)、ハーガートイ(T. J. Hargety)、ヘンク(Eugene V. Debs)、トラウトマン(William E. Trautman)、シモンズ(A. M. Simons)、スミク(Clarence Smith)、ノーン(D. C. Coates)、シャートン(C. O. Sherman)である。シモンズとデレオンとは何れも社會政黨員であるが、前者は『社會黨』に屬し、『新國民』(Comming Nation)の主筆であり、後者は『社會労働黨』に屬する大立物で『日刊民衆新聞』(Daily People)の主筆であつた。ハーガートイはカソリック教の僧侶で『アイ・ダブルユー・ダブルユー』の原の前文の起草者であつた。デブスはこの運動に對して絶大の熱誠と雄辯を揮つて参加し、新團體の將來に就て樂觀論を唱へた。ハイウッドはコロラドに於て『西部坑夫聯合』に加はつて多年の經驗を有する老練の闘士で、非常に戰鬥意識が熾烈であつた。尙ほデレオンはコロンビア大學の法學部の出身で、一八九五年の『社會主義諸業労働同盟』(Socialist Trades and Labor Alliance)の組織に關與し、それが『アイ・ダブルユー・ダブルユー』に合體するまでその役員であつた。彼は『社會黨』の樂觀論者の主張する『内部から鑿孔する』政策には極端に不賛成であつて、獨立に經濟的團體を組織することを提案したのである。然るに社會黨の人々は經濟的團體が政治的關係を有することを全然不必要であると考へた。

大會の出席者の間に於て、主義主張の異なるものが多かつたことは、既に述べた通りである。屢々『アメリカ労働聯合』との關係が問題となつたのはその發現である。『アメリカ労働聯合』の指導者は勞資の利害の一致を主張するが、それは事實に反することであり、正直な者は必ず兩階級間の不斷の闘争を認めない譯には行かない、この團體は階級闘争を認め、それに基づいて建設せられるものであるとハイウッドは述べてゐる。また労働階級の合同せる政治活

動の必要を肯定することも『アメリカ労働聯合』の誤である。斯の如き立場にある産業別労働組合論者にとりては『アメリカ労働聯合』は技工的労働組合の象徴であり、労働階級の直接の利益を増進せざるのみならず、資本主義制度の徹廢の支柱としては全然無用のものである。彼等の理想とする労働組合は現在の労働条件を改善する以上のものでなくてはならぬ。勿論直接の利益は増進するが、第一の目的は労働者の奴隸的職能を廢止し、賃銀制度又は資本主義制度に代へるに協同的國家を以てするにある。彼等は眞の労働組合は一切の労働者乃ち不熟練労働者及び移民民井に所謂『労働貴族』である熟練労働者をも包括すべものでなくてはならぬことを極力主張した。

會議に出席せる者の多数は『アメリカ労働聯合』が資本家的政略に毒せられ、産業別組合となる望の無いことを信じた。併し乍らシモンズ其他の一部の者は『アメリカ労働聯合』を構成する或種の組合を『内部から鑿孔する』ことによつて産業上の目的を擴充することが出来ると確信した。これに對しては全然反對の立場に立つものがある。デレオン一派がそれであつて、彼等は『内部から鑿孔する』ことは時間の浪費であると言つてゐる。テプスも亦その無効なることを主張した。「一大變革を起すには只一途、労働階級が『アメリカ労働聯合』と袂を別ち、經濟方面に於て彼等の階級を代表することを目的とする労働組合に加入することであるのみである」と述べてゐる。

會議の最初の五日間は信任狀の審査、宣言書の説明、『アメリカ労働聯合』に對する非難に費され、第六日には建設的事業の主要なる部分が、委員會の手から移されて議事日程に上程された。而して會場の空氣は、次の點に關して決議が行はれたことを以て知られるであらう。乃ち教育局の設立維持、各個人が社會の福祉に有用であり、同等の報酬を受けること、五月一日を労働祭 (Labor Day) とすること、『アメリカ労働聯合』の組合及び労働者の分離の理由を公表すること、社會的總ストライキが階級闘争の終局の解決手段たること、協同通商制度の樹立、賃銀労働者のみを組合員とすること、ベルリンに本部を有する『労働組合國際事務局』と聯絡を保つこと等である。而して會議の最後の五日間は會則と前文の討議に費された。起草委員の手に成る『前文』は、初めの二齣を除く外、殆んど何等の修正を加へられずして可決せられた。併し乍ら二齣に對しては異論が強硬に戰はされたのであつた。それは次の點であつた。

「労働階級と傭主階級とは共通の何物をも有しない。何萬といふ労働者の間に飢餓と缺乏が見出され、傭主階級を構成する少數の者が人生の善きものを一切所有する限り、平和は存在しない」。

「是等兩階級の間に於ける闘争は、總ての労働者が、産業界井に政治界に於て團結し、何れの政黨にも加盟することなくして、労働階級の經濟的機關によつて、労働の所産を自己の所有とするまで、繼續せざるを得ない」。

これは第一に新團體が階級闘争を基礎とする經濟的團體であることを直截簡明に示し、第二に現在の如何なる政黨にも依頼せざる政治的行動を執ることを主張したものである。

この中の「政治界に於て」といふ一齣は賛否兩論に分れ、結局この全文に就て熱心なる討論が闘はされた。シモンズは政黨を有せざる政治的活動に賛成すると主張して政治的條項に反對した。これに對してデレオンは、この新しき團體をして文明と歩調を合させる爲めに政治的條項が必要である、文明人と野蠻人との相異は腕力に訴へるか

政治に訴へるかにあると主張した。これは「社会労働黨」の立場であつて、「社会労働黨」は眞の労働組合運動は單に工場に於て闘争するのみならず、特に勇往邁進、如何なる犠牲を拂ふも、選挙の日に方り、資本主義の諸政黨と戦はざるべからずと言つてゐる。斯の如き議論の間に現代の事業が政治の創造者であり支配者であることを意識し、或る代表の言を藉れば、投票はこれまで未だ嘗て労働階級の解放を成就せることなく、將來に於ても無かるべしと云はれる。而してシモンズは政治活動に参加せる労働組合は短命脆弱なるを免れないと言つてゐる。

それは兎に角として、政治的條項は採擇せられた。而してこの政治的條項の最も合理的な解釋によれば、労働階級は政治的に團結しなくてはならぬが、その組合は「アイ・ダブルユー・ダブルユー」であり、その中にあり、又はそれと關聯を有することを必要としないのであつた。併し乍らそれはこの團體の統一に致命的痛であり、三年後にはその事實が明白となつた。乃ち二派に分裂したのである。一は直接行動派で、政治運動を排斥し、前文の修正せるものを採擇し、他の一はデレオン派で、理論派で、政治運動に賛成し、同じ前文の政治的條項を維持した。

尙ほ總立總會に於て問題となつたこの政治的條項は後に次の如く改められた。これに就ては後段に詳論する機会があるであらうが、便宜上本文だけを次に掲げることとする。

「是等の兩階級の間には、遂に世界の労働者が一階級として團結し、土地と生産機關とを占有し賃銀制度を徹廢するまで、闘争が繼續せられるなくてはならぬ」

それは兎に角としてこの創立總會に方つて委員會が起草し採擇した『前文』の第二節以下は次の如く讀まれる。

産業の管理を漸次少數の手中に集中することは、労働組合をして漸次勢力を強大ならしめる傭主階級と對抗することを不可能とすることを見出す。同業労働組合は、同一産業に於て一團の労働者和其他の一團の労働者とを相抗争せしめる事情を醸成し、従つて賃銀闘争に於て相互に敗北することを援助する。加之、同業労働組合は労働者をして、労働階級が彼等の傭主と共通の利害關係を有すると誤信せしめる。

是等の状態は變革することが出来、労働階級の利益は、何れかの一つの産業に於て、または必要であるならば總ての産業に於て、その總ての人々が、その産業の一部門に於てストライキ又はロックアウトが起りたる時には、作業を停止し、斯の如くして一部に對する損傷は全部に對する損傷であるようにする方法に於て、團體を組織することによりてのみ、維持せられるのである。

保守的箴言「正常労働時間に對する正常時間賃銀」に代へるに、吾等は吾等の旗幟に革命的格言「賃銀制度徹廢」を銘記しなくてはならぬ。

資本主義を徹廢することは労働階級の歴史に残る重大使命である。生産軍は資本家と日常の闘争を爲すためのみならず、資本主義が打倒せられたる時に生産を遂行する爲めにも、團結しなくてはならぬ。産業別に團結することによつて、吾等は古き穀の内に新しき社會機構を構成しつゝあるのである。

斯の如き主義の宣言に一致する爲めに、「アイ・ダブルユー・ダブルユー」は總ての労働階級を團結せしめることを提案したのである。乃ち肉體的并に頭腦的労働者一切を産業別労働組合に組織することを圖つたのである。蓋し職

業別労働組合は職業意識に基き、労働階級の窮極的解放をなすに不適當であつたからである。階級闘争を行ふには産業別労働組合が最も適當してゐる。以上の前文は、『アイ・ダブルユー・ダブルユー』が産業別労働組合主義に則ることを明確に規定してゐる。

次に委員會の報告の原案によると十三部の國際産業別部門(ディビジョン)に分ち、中央集權的統轄に資した。併しこれに關しても議論が沸騰した。二日半、乃ち全體の憲法に費すべき時日の半分をこれに當てたのである。多數の代表者は、斯の如き特殊の部門別は實行不可能であり、産業別労働組合としてこれに則るのは矛盾し、職業別労働組合主義に墮すのものであると考へた。またこの條項は『宣言』の「地方的には職業自治、國際的には産業自治、一般的には労働階級の統一」といふ規定に背反するといふ感情もあつた。併し乍らこの部門別の主要思想は中央集權であつて、これには大部分の代表者が賛意を表したのである。それ故に、この原案を修正して、結局、特定の部門の範疇を示すことを止めて、兎に角十三部に分類することにした。特定の部門別の表は後に規約に於て多大の修正を加へられ、更らに一九二一年トラウトマンによつて改善が加へられ、六部門(デパートメント)に減ぜられた。乃ち農業部門(二〇〇番)、鑛業部門(二〇〇番)、建築業部門(三〇〇番)、製造業及一般生産業部門(四〇〇番)、運輸業部門(五〇〇番)、公務部門(六〇〇番)がこれであつて、各部門が更らに幾つかに細分せられること勿論である。規約に規定せられたる役員には總裁、財務書記長、總執行委員會があり、次回の大會迄七名より成る臨時委員會が任命せられた。總執行委員會は大會から大會迄の事務を處理する權能を與へられ、加盟組合に對する加盟狀を發

行し、又ストライキ及び協定に關する權能をも有し、總裁は他の執行委員よりも廣い權限を有するものであつた。而してこれによつて選任せられたのは會長として、『合同金屬労働組合』(United Metal Workers)のシャーマン(C. O. Sherman)財務書記長としてシンシナティの『産業労働俱樂部』(Industrial Workers Club)のトラウトマン(William E. Trautman)總執行委員として『アメリカ労働組合』(American Labor Union)のリオードン(John Riordan)同ジョン・ローニン(F. W. Cronin)、『合同鐵道従業員組合』(United Brotherhood of Railway Employee)のマッケイブ(Frank McCabe)、『合同金屬労働組合』のカークパトリック(Charles Kirkpatrick)、『西部坑夫聯合』のモイヤー(C. H. Moyer)の五名が擧げられた。

尙ほ前文并に規約は六票對一票を以て採擇せられた。而して新規約の下に於て團體の結成に賛成したのは五個の主要組合——『西部坑夫聯合』、『アメリカ労働組合』、『合同鐵道従業員組合』、『合同金屬労働者組合』、『社會主義諸業労働同盟』、六個の地方組合、三千九名の個人であつた。而してそれぞれ役員を選擧し、シカゴに本部を置くことに決定し、大會は一九〇五年七月八日閉會した。

大會の成果は多くの關心を有する者が期待したところとは極めて異なるものであつた。前文も會則も『一月會議』に於ける『宣言書』と正確に一致してゐない。それは『一月會議』にデレオンが出席してゐなかつたことによるのである。新組織は彼の屬する『社會労働黨』か又は彼の感化を受けるか、若しくはその傀儡となることが豫め憂慮せられてゐたが、これは事實となつて現はれ、デレオンとその一派は原の見解を破壊した。デレオンの影響は如何に甚大

であつたかを知るべきである。それと共に初期に於て『西部坑夫聯合』の重要性も非常なものであつた。眞實『アイ・ダブルユー・ダブルユー』はこの組合から誕生したといふことも出来る。其處から財政上の援助も送られたのであつた。この組合のコロラド、モンタナ、アイダホ等の諸州に於ける激しい闘争が比較的狹隘なる金屬鑛業の範圍を超へて革命的産業労働組合主義の擴張を受容する気分と地歩を作つたのである。

『アイ・ダブルユー・ダブルユー』は内部に不和があり、外部に誤傳があつたが、同志の者はその前途を樂觀してゐた。而してその宣言書には「何れの政黨とも關係なくして」とあるが新聞はこれを一種の政治團體と見てゐるものが少くなかつた。また『アイ・ダブルユー・ダブルユー』は「労働階級の最後の解放に努力する」ことを規約に掲げてゐる。これが技工別労働組合と區別せられる點である。技工又は職業意識と階級意識による區別である。併し乍ら無政府主義的分子は一九〇五年に於ては極めて微弱であり、運動の社會主義的及び産業的方面によつて隠蔽せられてゐた。(Brissenden, pp. 57-110; St. John, The I. W. W., Its History, Structure, and Methods; —, What is the I. W. W.)

四、内部組織

『アイ・ダブルユー・ダブルユー』は過去の経験より結論し、團體の形態と構造とは、労働階級をして階級連帯の促進に資するには、機械の發展と産業に於ける集中過程の進行に一致するものなることが肝要であると主張してゐる。

(C. O. Sherman)と我等の母メリー・ジョーンズ(“Mother” Mary Jones)であつた。

會議の會期は三日に亘り、新しい労働團體の計畫を熱心に討議し、委員會の報告は會議員によつて「宣言書」(Manifesto)に作成せられた。而してその内容の主要なる眼目は、第一労働組合運動の現状、第二新労働團體の指導的主張と計畫、第三大會の召集であつた。第一に關しては機械的生産過程が熟練の必要を減じ、労働者の地位が低下して行くこと、資本家の専横に對する抵抗力が人爲的差別によつて弱められる、併し乍ら傭主は産業別に團結し、軍隊の力を利用するが故に強力となることを明かにしてゐる。第二の點に就ては技工別組合組織が嚴重なる批判を受け、階級の連帯を不可能ならしめると言はれる。これが改善策として主張せられるのは總ての産業を含む一大産業別労働組合で地方的には技工(職業)別自治、國際的には産業自治、而して一般に労働階級を結合するものではなくてはならぬ。これは階級闘争に基礎を置き、政黨と無關係の労働階級の經濟團體として組織せられねばならぬ。この中で技工(職業)別と言ふのは奇妙に感ぜられるが、各職業關係の事柄に關する職業的自治を意味するのである。尙この宣言書は一切の権力が團體としての加入者に歸し、總ての様式や會費が一樣であり、定期に報告書を發行しまた中央防衛基金を設けることを主張してゐる。而して第三の點に關しては産業別に労働階級の經濟的團結を爲すために一九〇五年六月二十七日シカゴに於て大會を開くこととした。この『宣言書』はアメリカ全土の總ての組合並にヨーロッパの産業別労働組合に廣布せられた。

『宣言書』の全文は次の如くである。

『アイ・ダブルユー・ダブルユー』の成立

であつたかを知るべきである。それと共に初期に於て『西部坑夫聯合』の重要性も非常なものであつた。眞實『アイ・ダブルユー・ダブルユー』はこの組合から誕生したといふことも出来る。其處から財政上の援助も送られたのであつた。この組合のコロラド、モンタナ、アイダホ等の諸州に於ける激しい闘争が比較的狭隘なる金屬鑛業の範圍を超へて革命的産業労働組合主義の擴張を受容する氣分と地歩を作つたのである。

『アイ・ダブルユー・ダブルユー』は内部に不和があり、外部に誤傳があつたが、同志の者はその前途を樂觀してゐた。而してその宣言書には「何れの政黨とも關係なくして」とあるが新聞はこれを一種の政治團體と見てゐるものが少くなかつた。また『アイ・ダブルユー・ダブルユー』は「労働階級の最後の解放に努力する」ことを規約に掲げてゐる。これが技工別労働組合と區別せられる點である。技工又は職業意識と階級意識による區別である。併し乍ら無政府主義的分子は一九〇五年に於ては極めて微弱であり、運動の社會主義的及び産業的方面によつて隠蔽せられてゐた。(Brissenden, pp. 57-110; St. John, The I. W. W., Its History, Structure, and Methods;—, What is the I. W. W.)

四、内部組織

『アイ・ダブルユー・ダブルユー』は過去の経験より結論し、團體の形態と構造とは、労働階級をして階級連帯の促進に資するには、機械の發展と産業に於ける集中過程の進行に一致するものなることが肝要であると主張してゐる。

團體の構造が産業の發展と一致するに非ざれば、傭主階級との闘争に於て成功を収めるに必要な連帯を確保することが不可能であらう。時代後れの團體の形態は打破しなくてはならぬ。これを闘争時代に於て行ふことは失敗を招くに至る混亂を意味する。若し労働者が團體の舊式的手段と形態とを墨守して、傭主階級の現代的團體と闘争しなくてはならぬならば、如何に勇氣があり不拔の精神を有するとも、その結果は明白である。——敗北乃ちこれだと信じてゐる。

『アイ・ダブルユー・ダブルユー』は労働階級の連帯の必要を承認する。これを成就する爲めに、それは團結の根本原則として階級闘争の是認を提案する。而して労働階級が産業の管理を爲すに至るまで闘争するのがその目的であることを宣言する。斯の如き根本原則に於て、『アイ・ダブルユー・ダブルユー』は労働階級の經濟的獨立の爲めの闘争に不可欠の革命及び抗争の精神を喚起する。換言すれば根本原則は『アイ・ダブルユー・ダブルユー』を闘争的團體たらしめる。それは労働組合に私有財産制度と産業統制に對して不斷の闘争を行はしめる。『アイ・ダブルユー・ダブルユー』が傭主階級と取引する唯一のものは、産業の統制一切を組織労働者に完全に讓渡することこれである。

過去の経験は『ナイツ・オブ・レーバー』の如き烏合的團體が無力であることを立證した。また職業別労働組合は、職業自治と傭主との利害の一致を主張するものであるが、これも失敗であることが判明した。それは労働階級に有力なる武器を與へない。それは熟練職工の地位を改善するには役立つた。併し乍ら職業別の狭い構造の爲めに、階級的利害は久しく無視せられ、職業的利害のみがその加入者の行動を支配した。職業別労働組合はその加入者の爲

めに、多数の労働階級を犠牲にして、傭主階級と契約を締結して特惠を得ることが出来るのみである。彼等は多数の労働者を隷屬的地位に止らしめる爲めに傭主と盟約してゐる。吾等はそれが現在に於てもまた將來に於ても労働運動となることを否定する。

今日アメリカに於ては總ての基礎産業に於て、その一部の労働者が地位の改善を圖る時は、彼等は傭主階級全體に對して抗争するのである。ストライキの經費は、労働者を屈服せしめる爲めに結成した傭主團體が負擔する。蓋し總ての者が低廉なる労働力を得ることに共通の利害關係を有するが爲めである。

『アイ・ダブリュー・ダブリュー』は斯の如き事情の下に於て組織せられたものであつて、その組織の概要は次の如くである。乃ち

(一)組織團體の單位は『地方産業別労働組合』(Local Industrial Union)である。この産業別労働組合は或る場合には特定都市又は地域に於ける特定産業の労働者の總てを包括する。

(二)同一産業に屬する總ての地方産業別労働組合は結合して『全國産業別労働組合』(National Industrial Union)を組織する。これは全國に亘つて其産業を管理する權利を有するものである。

(三)密接なる關係にある諸産業の全國産業別労働組合は結合して部門別機關(Departmental Organization)を組織する。例へば食糧品の生産并にその取扱業に従事する總ての全國産業別労働組合は結合して『食料品部』(Department of Produce)を組織するのである。また蒸汽、航空、水上又は陸上の諸運輸業に従事する労働者の産業別労働組合

は結合して『運輸部』(Transportation Department)を組織するのである。

(四)諸種の『産業別部』(Industrial Department)は結合して總機關(General Organization)を組織し、而してこれは更らに同じ『國際機關』(International Organization)の本質的一部分を形成するのである。この『國際機關』によつて、總ての國の労働者間に於ける連帶と協力とが成立するのである。

地方産業別労働組合は地域的并に産業的種類の制限を受け、特定の都市又は郡区内に於て特定の産業及びこれと密接の關係ある職業、工場并にその産業が當然必要とする各種の事業に従事する總ての労働者を以て組織する。この地方産業別労働組合は各種の事情に應ずる爲めにそれぞれ細分せられた支會(Branch)に於て事務を處理する組織となつてゐる。地方産業別労働組合に設立せられる支會は次の如きものである。(一)國語別支會(Language Branch)(二)工場別支會(Shop Branch)(三)大産業に於ける部門別支會(Departmental Branch)(四)地方別支會(District Branch)(五)地方産業協議會(District Industrial Council)がこれである。

國語別支會は労働者殊に移民労働者がその熟練せる國語を以て事務を處理する爲めに設置せられたものであるが、これはイギリス語の普及によつてその必要が漸減するであらう。工場別支會は労働者が直接影響を受ける條件を統制するために設置せられるのである。部門別支會は事務を組織的に處理する爲めに必要とせられる。地方別支會は遠隔の地に於ける聯絡の不便を除去する爲めに設立せられたのである。最後に地方産業協議會は各産業地方に於けるそれぞれの労働者間の完全なる連帶を維持する爲めに設立せられるのであつて、規約によると、それは地方

に於ける賃銀労働者の協同一致を圖る爲めに組織せられ、五つ以上の地方産業別労働組合又は補充組合より成り、當該地方と本部との聯絡を保つべきものである。この機關を設立したる理由は次の如くである。

『アイ・ダブリュー・ダブリュー』の終局の目的は協同的共和政治の準備をなすにあるとすれば、吾等は都市及び郡區に於て行政を行ふ仲介機關を編制する爲めに今より適當の措置を講ずることが必要である。地方産業協議會は斯の如き必要に應ずる爲めに設立せられたのである。而してその管轄は本部に於てこれを決定すべきものであり、その將來の職分はその構成分子たる産業別労働組合より代表者を選出せしめ、これによりて産業管理を行ふにある。併し乍らその現在の職分は『アイ・ダブリュー・ダブリュー』の擴張、編成并に地方教育事業を管理し、ストライキ其他資本家に對する闘争手段を指揮するのである。この外國體的管理によりて成功を收むべき事項は一切その權限に屬すべきであるとトラウトマンは説明してゐる。

尙ほ産業部門は二つ又は二つ以上の産業別労働組合で加入者二萬以上を包括するものによりて組織せられ、次の六部門がある。

- 一、農業、土地、漁業、水産部門
- 一、鑛業部門
- 一、運輸通信部門
- 一、製造及び各種生産部門

- 一、建築部門
- 一、公務部門

以上は主として創立當時の組織を規約に従つて展示したのであるが、セント・ジョンが記するところに従つて次に若干の補論を附加し其後の改正を併せて知る便宜とするであらう。(Vincent St. John, The I. W. W., Its History, Structure, and Methods, Revised, 1919)

産業別労働組合は或る場合には特定産業の労働者の總てを包括することがあるが、また或る場合には數個の管轄を異にする産業別労働組合がこれを包括してゐることもある。例へば『海上運輸産業』(Industry of Marine Transportation)は大湖に一組合、大西洋及び灣内に一組合、太平洋岸に一組合、ミズシッピー河航路に一組合あり、それぞれ特殊事情の特殊の要求に合致する爲めに分岐したのである。

(二)密接なる關係にある産業の産業別労働組合は部門別組織を形成する。例へば前に述べた『海上運輸労働者産業別労働組合』(Marine Transport Workers' Industrial Union)は『鐵道又は蒸汽運輸産業別労働組合』(Railway or Steam Transportation Industrial Union)『都市運輸産業別労働組合』(Municipal Transportation Industrial Union)『モーター・トラック運輸者組合』(Motor Truck Transporters' Union)及び『航空者組合』(Aviators' Union)と結合して『運輸通信部』(Department of Transportation and Communication)を組織してゐる。

(三)諸種の『産業別部門』は總機關(General Organization)を組織する。併し乍らこれはまた同じやうな『國際機』
『アイ・ダブリュー・ダブリュー』の成り

關』(International Organization)の本質的一部となるべきものである。この國際機關によつて總ての國の労働者間に於ける連帶と協力とが成立するのである。

産業の種々の部門中に存在する技術の差異と多數の労働者が使用せられる場合に於ける事情を考慮して、『産業別労働組合』は必要ならば支部を設置する。若し其組合が特定産業に於けるか、又は一産業中の特に分立せる區域に於ける總ての労働者を包括する時は、當該組合の『産業別支會』(Industrial Branches)が労働者にとりて最も便利なる中心地に設置せられる。

是等の『産業別支會』は更に次の如く細分せられる。

- (一) 「工場別支會」(Shop section)、これによりて各工場の労働者は彼等に直接關係ある條件を支配するのである。
- (二) 「國語別支會」(Language section)、これによりて労働者はその最も熟練せる言語を以て機關の事務を處理するのである。
- (三) 部門によりて執行せられる大規模産業に於ては、部門分會(Department subdivision)が機關の事務を系統立て且つ單純化する爲めに形成せられる。
- (四) 廣汎なる地方分野に亘る産業に於てか、又は一産業が都市の主要産業をなす場合に於ては、地方分會(District subdivision)が組織せられ、労働者をして餘り遠距離を旅行することなくして組合の集會に出席することを得るのである。

とを可能ならしめるのである。

(五) 何れの特定産業地方に於ても、各産業の労働者間のみならず總ての産業に於ける労働者の間に完全なる産業連帶を有せしむる爲め、其地に於て活動する總ての産業別労働組合(Industrial Union)及び産業別支會(Industrial Branch)から選任せられたる代表者を以て産業地方協議會(Industrial District Council)を組織する。而してこの協議會によりて當該地方全體に亘る行動の統一を維持するのである。

次に地方支會及び分會の任務に就て述べよう。先づ工場別支會、國語別支會、部門分會、地方分會は産業別支部又は産業別労働組合を通じてのみ事業主と交渉する。斯くして各部に於ける労働者は彼等に直接關係ある條件を決定すると同時に、産業別支會及び産業別労働組合を通じて一切の産業の労働者と一致して行動するのである。

イギリス語の知識が普及するに伴れて、國語別支會は消滅するであらう。

機械生産の發展は技術的知識又は熟練に基づく分會をも亦漸次消滅せしめるであらう。

産業の所有及び統制が絶えず發展し集中するに伴れて、産業別労働組合又は産業別部門の數も同じやうに集中する。それは何れの時代に於ける團體も時代の要求に一致すべく、従つて組織労働者が食物、衣服、住宅、教育及び娯樂の量を決定することが出来る媒介物を提供するのである。

併し前述の一九二二年まで幾多の改正を経たる規約は、其第一條に名稱及び構造、部門、産業別組合、協議會を規定してゐる。而して協議會を規定せる第五節の全文は次の如くである。

第五節 (イ) 總産業別労働組合地方協議會 (General Industrial Union District Council) は特定地方に於ける一般的連帯を樹立することを目的とするものにして、二又はそれ以上の産業別労働組合の代表者を以て組織せらるべきものとする。其任務は當該地方の異なる産業別労働組合を相互に接觸せしめ、當該地方の一般的福祉に關係する一切の事務を處理する。總産業別地方協議會 (General Industrial District Council) の行動は一切當該地方の總ての加入者の一般投票によらねばならぬ。『アイ・ダブルユー・ダブルユー』の規約と抵觸する規則を地方が通過せしめることは出来ない。總産業別地方協議會は總會が一體としての團體に對して有すると同様の關係を當該地方に對して有するのである。總産業別地方協議會は當該地方が必要とする程度に應じて屢々集會を開くのである。

(ロ) 産業別地方協議會は總産業別地方協議會が當該地方全體に對して任務を有すると同じ方法に於て産業別労働組合に對して任務を有する爲めに設立せられるのである。産業別地方協議會は特定地方に於ける一産業の職業支會又は工場支會の總ての代表者より成るのである。其任務は産業別労働組合の地方總會のそれと同様である。それは當該地方の必要とする程度に應じて屢々集會を開くべきものである。

右の規約に於て職業支會 (Job Branch) と稱するのは規約第二條第三節に規定せる支會である。それによると

第三節 一職業に於て七名又はそれ以上の加入者ある時は、彼等は工場又は職業支會を構成し、事務集會の中間に於ける緊急事項を聽取する爲めに職業委員會と職業代表者を選任する。如何なる加入者も委員會に永續して

委員たることを得ざるものとする。各集會に於て絶えず新委員を選任しなくてはならぬ。總ての加入者が順次に委員として職責に盡すべきである。

次に述べるのは『アイ・ダブルユー・ダブルユー』の管理である。

『アイ・ダブルユー・ダブルユー』の管理は著しく中央集権的であつて、總ての権力は總本部に集中せられてゐる。而して『アイ・ダブルユー・ダブルユー』は議決機關として總會 (General Convention) を有し、執行機關として總執行委員會 (General Executive Board) を有する。産業別組合總會 (Industrial Union Convention) 産業別地方總會 (Industrial District Convention) も前者に屬し、『アイ・ダブルユー・ダブルユー』は財務書記長 (General Secretary-Treasurer) を有し、産業別労働組合は財務書記 (Secretary-Treasurer) と一般機關委員會 (General Organization Committee) を有する。これは現在に於ける戦線を形成し、それと同時に『アイ・ダブルユー・ダブルユー』の目論見る將來に於ける新社會の生産及び分配の機關の中核となるべきものである。

總會に關する規約 (前述の規約第五條がこれに充てられてゐる) を摘譯すれば次の如くである。

第一に大會は毎年十一月第二日曜に總本部の所在地に於て開催せられる。

第二に總會は立法機關であり、その施行は、總會の採擇したる構成法規の修正に關して、それが加入者の一般投票によりて支持せられる時は、法律的強制力を有するのである。斯の如き修正は、總會終了後十五日以内に總執行委員會がこれを一般投票に付すべく、投票は投票開始の日より四十五日を経たる時締切られる。

第三に年次總會に出席する代議員の外、財務書記長、總執行委員會員は總て出席し得る。併し彼等は發言權を有するも投票權は有たない。次に代表數に關しては、總會前の會計年度中に總本部に支拂ひたる加入者各自の會費に基きて決定せられ、各労働組合は最初の五十名に對し一票、それ以上五十名又は其端數を増す毎に一票を増加する割合を以て投票權を有する。總本部より承認狀を下附せられたる加盟労働組合は二百名又はそれ以下に付き代議員一名、それ以上二百名又はその端數毎に一名を増加するのである。而して總會の代議員たるべきものは三年以上産業別労働組合の加入者であり、指名直前十二ヶ月繼續して有効の状態に於て加入者たることを必要とする。

次に執行機關に關しては規約第三條が之を規定してゐる。これによると總本部役員 (General Officer) (この言葉は次に述べる産業別労働組合の役員と相對的名稱である。「ゼネラル」の意味は他の場合に於ても同様に解すべきである) は『財務書記長』(General Secretary-Treasurer) と總執行委員會 (General Executive Board) とがある。後者は財務書記長と外に七名の委員より成る。財務書記長は總執行委員會の事項に關しては發言權を有するも投票權を有しない。各産業別部門の財務及び産業的事項は、當該部門の一般加入者より選任したる七名を下らず二十一名を超えざる執行委員がこれを處理するのである。尤もそれは執行委員會及び當該産業別部門の一般加入者が常に『アイ・ダブルユー・ダブルユー』の總執行委員會の指揮の下にあること、また一般投票の經費はこれに關係せる産業別部門又は産業別労働組合が負擔するのである。

如何なる本部の役員も主筆を除き繼續二期其任に就くことが出来ない。一期は一ヶ年であり三月一日を以て始まるのである。又如何なる役員も離任後一ヶ年を経るにあらざれば役員に擧げられることが出来ない。

財務書記長は指名以前に於て三年間繼續して有效なる機關の加入者でなくてはならぬ。財務書記長の指名は總會に於て多數の投票を得たる三名の候補者に就て機關の總加入者の選舉によりて行ふのである。財務書記長の任務は一切の帳簿、書類、所有物品の保管に當り、各産業別労働組合に總ての議事録の寫を提供し、通信聯絡の事務を行ひ、團體印鑑を保管し、一切の公文書に署名と捺印をなし、事務を處理するに必要な文房具、事務所用品を備付け、總會の一切の會合に於て書記として活動しなくてはならぬ。彼は發言權を有するも機關の理事會に於ては投票權を有しない。

財務書記長は九月末日を以て會計年度末として帳簿を締切るべく、毎月の會計報告書を作成し、總執行委員會の發行する一切の承認狀の作成署名を行ひ、一切の承認狀下付料金を收納し、總執行委員會の指圖に従ひ一切の金銭の保管に任ずるのである。

尙ほ彼は専ら機關の事務に従事すべく、機關の基金より一日四ドルの報酬を受けることが出来る。また彼は必要な場合に手助を使用することが出来る。此場合の報酬は總執行委員會と財務書記長が決定するのである。

次に總執行委員會であるが、其委員たるべきものは指名前二年間機關に於て繼續して有効に加入者たることを必要とし、『アイ・ダブルユー・ダブルユー』の總會に於て指名せられ、一般投票によつて選舉せられるのである。而して各産業別労働組合は三名を限り指名し、總會に於て二十一名の最高の投票を得たる者が全加入者の投票に附せら

れるのである。

總執行委員會は、第一に大會より大會までの間に於ける機關の一切の事務を監督し、其管轄に屬するあらゆる利害關係を周到なる注意を以て監視しなくてはならぬ。彼等を補佐するものにあらゆる機關の役員と加入者とがあるが、事情によつては斯の如き組織者を任命することが出来る。總執行委員會が代議員又は組織者を任命するには豫め組合に通告をなしたる後に於てこれを行ふべきである。組織者は總て絶えず總執行委員會議長の指揮の下にあるべく、總ての組織者及び總執行委員會員は議長に所定の用紙を以て毎週尠く共一回報告書を提出しなくてはならぬ。彼等は勤務の報酬として一日四ドル及び一切の組織費并に交通費を受けることが出来る。

機關又は其の所屬團體に關係ある事件に對する總執行委員會の決議はこれを拘束する。但し次回の總會又は全加入者に對して抗告することが必要である。若し所屬團體が加入者の一般投票によるべきことを要求したる時はその團體の經費負擔に於てこれを行ふべく、總執行委員の決議を加入者の投票が否決したる場合はその經費は總本部の負擔とするのである。

總執行委員會は産業別部門、産業別労働組合、又は産業別支會に承認狀を發行する全權を有する。又此處に規定なき労働組合の承認分類をなす權能をも有する。それよりも更に重要な權能はストライキ權の行使であつて、規約第三條、第六節、總執行委員會の任務の項の(f)にこれを規定してゐる。乃ち『アイ・ダブルユー・ダブルユー』の所屬團體の加入者がストライキ又はロックアウトに包含せられ、總執行委員會が他の労働組合を参加せしむる必

要ありと認めたる時は、彼等はこれを行ふ全權を有する」とある。また總執行委員會は機關紙に對して全權能を有し、其政策を指導する。主筆は總執行委員會がこれを任命し、其報酬額をも決定する。その外總執行委員會員は『アイ・ダブルユー・ダブルユー』の所屬團體を訪問する權能を有し、記録を點檢し審問し、總會所定の帳簿組織を採用することを命ずることが出来る。尙ほ總執行委員會は財務書記長の召集又は總執行委員會の投票、若しくは二又はそれ以上の産業別労働組合の要求によりてのみ開催せられるのである。

以上は一九二二年までの改正を経たる規約による主要規定であるが、これを稍煩鎖なるまでに記述したのは、これによつて中央集權的特色を明かにする爲めである。その本來の規約に於ては更らに一層極端に中央集權的であつたが、屢々これに對する反對の叫が聞かれ、改正が企てられたる結果が以上の如き姿のものとなつたのである。

『アイ・ダブルユー・ダブルユー』の創立當時には存在した總裁の職は第二回の總會に於て廢止せられ、總執行委員會が多くの權能を有する中心機關となつたのである。而して就中ストライキに關する總執行委員會の權能に就ては特に注意を拂ふことが必要である。これに關しては他日を期して『アイ・ダブルユー・ダブルユー』の創立より今日に至るまでの活動を叙する際に詳しく述べたいと思ふ。(完)

昭和九年七月二十二日稿